

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/08/17～2017/9/5)

Moi! (フィンランド語でHi!)

8月17日～5月31日まで、フィンランド・ラップランド大学教育学部へ留学をしています。
この月間報告書には、毎月あった出来事や勉学の状況・生活の状況を書いていきます。
これから留学をしようかなと考えている皆さんにとって、参考になることがあれば幸いです(^_^)



ラップランド大学。留学生寮から自転車で約25分の所にある、4つの学部(Social Sciences, Art and Design, Education, Law)を持つ総合大学です。(€2.6で好きなだけ食べられる学食が美味しい…!)

1. 勉学の状況

8月22日～8月25日にオリエンテーションがありました。キャンパスツアー、Student Unionの加盟、学部の説明、履修登録の仕方、生活の仕方、異文化への対応の仕方、Finnish Friend Program (フィンランド人のご家庭へお邪魔できるプログラム)、Café Lingua (言語の教え合いができるカフェ)、Academic Writingと勉強の仕方についてなど本当に詳しく教えてくれるので、心配ご無用です。

詳しい勉強内容は次回の報告書から説明しますが、とりあえず前期に取りたい授業はSurvival Finnish, Italian, Children's Literature, Phonetics and Pronunciation, Teaching Other Languages, Finnish System of Education, Oral Skills, Introduction to the study of language, Teach and Learn, Observation Period Leading to the Teaching Experience, Teaching Experience, The Teaching Experience Reflective Reportで、主に外国語・英語学・教育学・観察実習・教育実習関連の授業を取ります(前期で30ECTS(日本でいうと18単位)を目安)。

今の時点(9月3日)ではフィンランド語の授業(Survival Finnish)を経験しましたが、先生がジョークやグループワークなどを交えながら進めてくれるので、3時間という長い授業時間

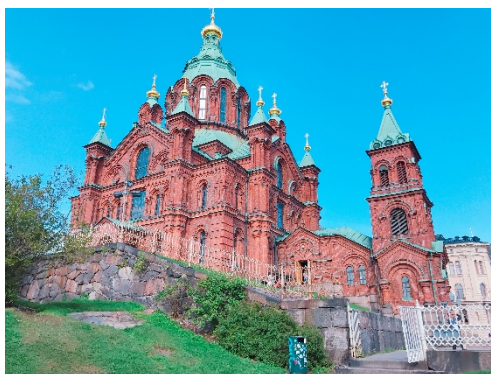
もあっという間に過ぎました。フィンランドの授業は日本のように「毎週月曜3限に教育学」という形式ではなく、「初回は月曜14時から17時、2回目は水曜8時から13時」という風に曜日も時間もバラバラです。そのためいくつかの授業が被ります（Overlap）が、それで授業を欠席することは先生も承知しているので、友達と協力しながら授業についていく…といった形です！

2. 生活の状況

8月17日に成田空港を出発し、10時間かけてヘルシンキへ行き、ヘルシンキ大聖堂やウスペンスキン大聖堂を見るなど観光をして夜行列車（Santa Claus Express）を待ちました。

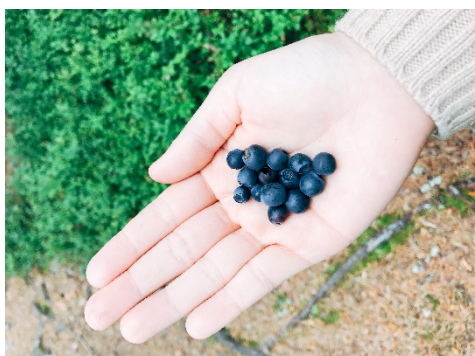


ヘルシンキ大聖堂



ウスペンスキン大聖堂

その後、13時間かけてラップランド大学のある北極圏・ロヴァニエミへ向かいました。ロヴァニエミはサンタクロースの故郷として知られ、トナカイやオーロラ、美しい森や湖が見られる自然豊かな観光スポットです。それゆえ田舎なのかと思いきや、ラップランド地方で唯一大学がある街なので国際色豊かで若者が多く、商業の中心地でもあるので一歩街へ出れば大抵のものはそろいます。これを書いている時点では到着してから10日ほど過ぎていますが、綺麗な自然と空気・優しいルームメイト・静かな立地など過ごしやすい環境が整っており、家族や友達ともLINEや電話ができていますので、ホームシックにはならなさそうです…！



↑寮の前の森でのベリーピッキング！



日本語を話せるサンタと記念写真！

今回は寮のルームメイトの話をしていきます。私は2人部屋を3つ含むアパートの1室を計5人で共

有しています。国籍はベルギー（24歳）・ドイツ（23歳）・トルコ（22歳）・フランス（20歳）で、私（21歳）のルームメイトはフランス人です。「冷蔵庫の中のものを勝手に食べる」「掃除を全くしない」「朝までガンガンに音楽をかけてパーティーをする」などの噂を散々聞かされてきたので、様々な国の人と一緒に住むのは難しいだろうと思っていましたが、私は幸いにもとても優しく気が利く大人な子たちと一緒に住むことができたので、特に辛いことはありません。強いて言うなら、夜疲れているときにリビングで誰かが英語をバーッと話しているのを聞くと、「今日はもう英語聞きたくない…」とたまーに思うことぐらいでしょうか（笑）

大勢でルームシェアをするメリットとしては、①英語を毎日聞ける、話せる②生活の中での異文化・多言語に触れられる③一気に友人が増える④一番家賃が安い（光熱費・水道代・Wi-Fi代・基本的な家具込みで¥20000/月くらい！）⑤寂しくない←夜が長く、とても寒いフィンランドでは特に大事！…などなどたくさんあります！②について話すと、ドイツの子は日本人と似て早起きで、朝も昼も早めにご飯を食べます。フランスの子は綺麗好きで、ほぼ毎日掃除をし、パンやナプキンで食べた後の皿を拭いています。トルコの子はトマトの皮をむく派で、ナイトクラブで上手に踊っていました。また、ときどき夜に各言語講座（漢字で4人の名前を書いて意味を伝えてあげたらとても喜んでいました）や各国の音楽パーティーを開いて楽しんでいます。こんな風に日本と違うものに既にたくさん触れることができおり、とても新鮮な毎日を過ごせています。ルームシェアをすることに抵抗がなければ、ぜひ皆さん共同部屋を考えてみてください！

8月の気温は15℃～5℃で、23時まで日が暮れません。これからどのように気温が下がっていくのか、暗くなっていくのか、楽しみです…（震え）。また来月、お会いしましょう！

Moi moi!（フィンランド語で Good bye!）

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/09/06～2017/10/05)

1. 勉学の状況

Hei! (フィンランド語でHi!)

8月末から本格的に授業が始まりました。ラップランド大学の授業期間は4タームに分かれており、1ターム目の現時点では8つの授業が始まっています。前回の報告書でも述べたように、半期で30ECTS取得が目安の上限なのですが、私は39ECTSを取っていて、課題と復習に追われ忙しい日々を送っています…でも、自分の為になっていると信じて乗り切ります!

・Survival Finnish 1 授業3時間

フィンランド語の授業はほとんどの留学生が受講し、2種類あります。1つ目はタームごとに1授業ずつ開講されるFinnish for Foreigners 1~4で、1は初級、4に行くにしたがって現在完了形、など難しくなります。2つ目はSurvival Finnishで、この授業だけでフィンランドで生きるのに必要な基礎的表現(挨拶、食材の単語など。スーパーの表示は全てフィンランド語なので、食べ物の単語は知っていた方が便利です(涙))を学びたい人向け(まさにSurvival)です。フィンランド語は世界で最も難しい言語にランクインしており、語形変化が何種類(40種類…以上!?)もあり、とにかく1語が長い…ので私はしっかり文法を学ぶのをあきらめてこちらを取りました(笑)授業は新たな表現を学んだらすぐに会話する、という流れで実践的でとても楽しかったです。ちなみにテストは簡単でした。取ろうと思っている方、ご安心ください。

・Italian 1 1 授業2.5時間

イタリア料理が大好きで、12月に旅行に行くつもりなので、初級イタリア語を取りました。初級ですが、他のフィンランド人学生・ヨーロッパからの留学生の基礎知識(母語がイタリア語と似ているため発音がしやすく、フレーズも覚えやすいよう)が多いので、日本語が母語の私はしっかり復習しないと置いていかれてしまいます…!そこで練習として、覚えた挨拶と自己紹介文を、後程説明するInternational Food Marketに出店していたイタリア人に使ってみました。「いいスタートを切っているね!」と褒めて頂き、若干自信が出ました。やはり、実際に使った方が覚えられますね!イタリアの人は陽気な人が多く、その人柄が好きなので、早くイタリア語で色々とコミュニケーションが取れるようになりたいです(^ ^)

・Children's Literature 1 授業3時間

毎回子ども文学を読み、先生の質問に答えてくるという宿題が出され、それをもとに授業でディスカッションをします。内容はシンデレラ、神話、アリス、プーさんなどの文学を通して、何をどうやって子供たちに教えるか(倫理観、ジェンダー観など)。ヨーロッパの学生はバンバン

手を挙げて発言するので、すごいなあと本当に感心します…。「これはどういう意味」「この場合はどうなるの」といった、日本人学生なら授業を中断させないために発言するのをためらうような、ものすごく細かい質問をしてくれます。先生に「どうしたら上手く発言できるか？」と尋ねたら、「Just be brave! Don't be afraid of making grammatical mistakes. Everyone is always on your side.」と言われたので、Braveになれるように頑張ります…！

・Teaching other languages 1 授業 4 時間

教育実習 (Teaching Experience) を行うために必須の授業です。フィンランドの学生と留学生数名と共に、英語教授法について学びます。Pronunciation, Vocabulary, Speaking, Grammar の教え方を「膨大な Research 結果を元に」「教室で使える Activity を実際に示しながら」詳しく教えてくれます。毎回の情報量がとても多く、しっかり復習して知識・スキルを自分のものにすればかなりの武器になりそうです。今は、今後グループで Vocabulary と ICT の模擬授業があるのでその作戦会議中です…

・Basic Phonetics and Pronunciation 1 授業 3 時間

英語の発音記号の書き方特訓、発音時の発声器官の動き、各国の苦手な発音と対策法などを学びます。母語の影響で、フィンランド人には「R が巻き舌になってしまう」「B・V が P になってしまう」など私たち日本人にはない苦手要素があり、ご存知の通り日本人には「R と L、S と TH の区別がしづらい」などフィンランド人にはない苦手要素があります。お互いの言語の特徴による得意・苦手な発音と対策を話し合うのはとても面白いです！そして、とにかく先生が情熱的で、毎回授業後にメールをくれるほど献身的で、とても優しく素敵です… (涙)

・Finnish System of Education 1 授業 2~4 時間

フィンランドの教育について、5 分野 (Overview, Early Education, Media Education, Special Education, Adult Education) の先生それぞれによるレクチャーを聞き、1 つテーマを選んでフィンランドと日本を比較しながら 2500~3000 字のエッセイを書きます。フィンランドの教育システムの概論を学べるだけでなく、自国と比較し、ディスカッションで他国の留学生と意見を共有する機会が多々あるので色々な国々の教育形態を知ることができます。フィンランドと他国の教育システム間で一番大きな違いは、やはり教育費が「全て」無料という点でしょうか…「全て」というのは、学費はもちろん交通費、給食費、文房具代、教科書代、寮代が幼稚園から大学院まで全て無料ということを意味します。その分物価は少し高いですが、やはり福祉国家素晴らしいなと感じます。

・Teach and Learn (Japanese-German) 1 回 2~3 時間

ペアの学生の言語を学び、自国の言語を教えるというペアワーク型授業です。各言語 25 時間ずつ教え合う計画を立て、担当の先生に許可をもらい、実行して報告書を出せば 2 ECTS もらえるという楽しい授業です！私はたまたま学食で会ったドイツの女の子が日本語を学んでおり、一緒

にやろう！という話になりました。各国の映画を観たり、料理を作ったり、もちろん言語も楽しみながら学んでいます（ところで、私は今英語・フィンランド語・イタリア語・ドイツ語を学んでいるので、そろそろ頭がおかしくなりそうです）。

・ Observation Period Leading to the Teaching Practice

教育実習を行うためには、実習先の附属小学校の英語の授業を 20 個見学することが必須です。こちらの学校は事前連絡なしにいつでも授業見学に来ることができ、教室の後ろのソファで座って見学をします。更に学食も食べていいよとのことでした。建物も赤煉瓦の素敵なお外観で、家庭科室は「暖炉つきのご家庭のキッチン」といったオシャレな雰囲気…日本の学校と違いすぎて、ただただ驚きです（日本は授業を見学する場合事前連絡必須、教師が立って授業をしているのに座って見学するなんて論外、お昼は各自でお弁当箱を持参、建物は簡素といった印象）。授業間は子どもたちが教室を移動するスタイルですが、その教室には担当の先生のオフィスがくっついており、先生が移動する必要がないので便利だと感じました。オフィスも日本の職員室のような堅苦しい雰囲気ではなく、ソファやコーヒーマーカーがあり家の個室のような雰囲気です。

授業の方は 1 授業 45 分で、一言でいうと「子ども中心・自由」です。教師が喋っている時間は日本と比べてかなり少なく、小学校の段階から Listening, Speaking を中心に学んでいました（英語の授業）。学ぶ場所は床に座ったり、廊下に出たり、教師のオフィスに移動したりと教室内に縛られず、また教室内だとしても机が 3 人ずつのグループになっていたり、くの字型になっていたりと集中させるための教師ごとの工夫があちこちに見られました。ここには書ききれないので、実際に見て頂きたいです！笑 詳しい話は次回書きたいと思います。

2. 生活の状況

今月は、一言でいうと「異文化交流期間」でした！順にお伝えします。

・ International Street Food Festival という、世界各国の料理が食べられるお祭りが 9 月 7 日～9 月 10 日に中心街で開かれました。私は毎日足を運び、ハンガリー・イタリア・フランス・ドイツなどなど様々な国の料理を食べました（^^）日本の出店にも行きましたが、春巻き・照り焼きチキン・うどんなど珍しいチョイスの食べ物が売ってました（てっきり寿司なのかと…）。秋に多く開かれるこういったお祭りは、街の人同士で楽しんで冬の厳しい寒さを乗り越えるための精神安定剤なのかなと勝手に考えました。また、後日 11 名ほどで中心街にある寿司屋に行き、折り紙、寿司、箸の使い方など様々な日本文化を紹介できました！寿司は案の定大人気でした（^^）



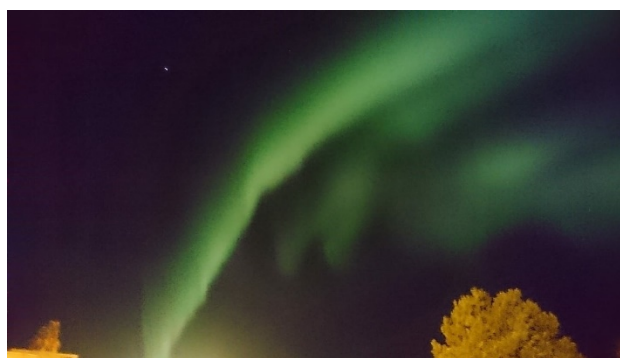
・私たちのフラットでも” International Food Festival in our flat” と称して国際ディナーが開かれ、私は肉じゃがを、ドイツの子はミルクパンを、フランスの子はポテトグラタンを、ベルギーの子はラザニアを、トルコの子はカレークリームパスタを作りました。どれも美味しくて、「みんなでレストランを開いた方がいいね！」と話しながら和気あいあいとした時間を過ごせました。他の友人の話を知ると、ルームメイトがお金にがめつかったり、わがままだったり、夜もクラブのようにうるさかったりしてなかなか大変なようなので、本当にルームメイトに恵まれたなと感じます…感謝(この後、新たにルームメイトが一人増えました。イギリスの子だったので、本当に International flat です (驚))。

・Café Lingua という母語を使って人々と会話を楽しむカフェの、日本語グループのリーダーになりました。日本語を学んでいる人々・日本人と一緒に日本語を使って行う会話やゲームの統率をするのが役目で、最後まで(12月上旬)やり遂げると証明書がもらえます。遠く離れたフィンランドでも日本に興味を持ち、3種類の文字形態を持つ難しい日本語を学ぼうとしている人々がいることに感銘を受けましたが、日本語をあまり話せない人々と話せる日本人との共通の話題を見つけ、全員で日本語で話そうとするのはなかなか難しいです…。

・最後に、来て早々オーロラを見ることができました！残念ながらハイクオリティのカメラを持っていないので綺麗に写真が撮れないのですが、透き通った星空に揺らめくエメラルドの光のカーテンはなんとも言えない美しさでした。ピークは11月以降の夜中12時以降らしいので、今後も北極圏でしかできない経験をしていきたいと思います！目指せ、赤や白のオーロラ！



私のスマホで撮った写真



友達のカメラで撮った「同じ」オーロラ。。

Hei hei! (フィンランド語で Bye Bye!)

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/06～2017/11/05)

1. 勉学の状況

Ciao! Come stai? (Hi! How are you? in Italian)

1ターム目が終わり、2ターム目に入りました。授業は1タームで終わるものもありますが、教育学部は2ターム連続のものが多いので、以下は前回に引き続きほぼ同じ授業の詳細です。私は相変わらず授業・実習に追われていますが、ヨーロッパの学生は旅行に行っていて楽しそう…(涙) 12月から1ヶ月間、私もヨーロッパ旅行をするので今は我慢です！)

・Children's Literature

この授業は毎回教え方が変わるので、実際に自分が文学を教えるときに参考になります。ある時は机をU字にし対話型 (Alice in Wonderland)、ある時は debate 型 (Winnie-the-Pooh vs Paddington)、ある時は group discussion 型 (Indian Myths)、またある時は読んできたバージョンを友達に教える模擬 teacher 型 (Cinderella) などなど。日本の授業のように全員が前を向いて先生の話の話を聞くというスタイルにとられないのは、フィンランドでは小学校も大学も同じのようです。特に印象に残っているのは debate で、とりあえずヨーロッパの学生の debate は一言でいうと「恐ろしい」です (英語でいうなら I was scared より terrified がふさわしいくらい…)。意見が合っていようがいまいが関係ない、全員がとにかく嵐のように発言しまくり、批判されたらすぐさま批判し返す、この恐ろしい状況を目の当たりにし怯えて一言も発言できなかった悔しさは一生忘れないでしょう…。あのシャイでおとなしいと言われるフィンランド人でさえ強気でした (涙) ヨーロッパは小学校から debate が授業の基本形態だそうで、そのおかげで頭の回転が速いのか? と一人悶々…。この授業を機に、シャイの壁を打ち破って頑張ってみようという気になりました。

・Italian 1

基本挨拶、自己紹介、職業の話、店での注文など基本表現と冠詞・ジェンダー・単複形・動詞の変形を学びました。個人的にイタリア語は美しく好きなので (アモーレ、ドルチェ、フォルマッジョ…響きが素敵)、イギリスに旅行に行ったときに英語で書かれたイタリア語の本を買って独学で勉強しようと思います (このコースの教科書はフィンランド語で書かれており理解できないため(汗))。イタリア語のコースを取ったことで自分は本当に語学が好きなのだなと気づき、将来の職も語学に関するものもいいなと改めて思ったので、留学先では興味のある授業はとりあえず取ってみることをオススメします！

・Teaching Other Languages

Vocabulary の教え方と ICT materials 紹介のプレゼンテーションを終えました。この授業は前回も述べた通り 4 skills + Grammar, Vocabulary を伸ばす授業のやり方や ICT の使い方、period/lesson plan の立て方、textbooks の分析の仕方を詳しく教えてくれたり、実践したり、自分たちで考案したものを発表してフィードバックをもらったりと1回1回が盛り沢山の4時間なので、11月に迫る教育実習でそれらを実践してみるのが楽しみになります！最後に、こちらの学生は授業中に編み物をしながら授業を聞くのでなんだか面白いです（集中力が高まるので、中学生くらいから皆編み始めるのだそう。男性も上手に編みます）。

・Phonetics and Pronunciation

現在は、英単語を IPA (International Phonetic Alphabet) を使って書き換える特訓と、12個の母音の発音を長さ・舌の位置・顎の上下・唇の形の観点から分析・特訓し、各母音の母音の特徴に合わせた効果的な教え方を学んでいます。それが可能なのは、先生が各国の発音に精通しているため…。このアメリカ人の先生は英語圏だけでなく様々な国の文学（最初に述べた文学の授業の先生でもあります）・発音・文法（最後に述べる文法の授業の先生でもあります。笑）をよく知っているので、母語と比較させたり、様々な観点から質問を投げかけて考えさせたりする授業をしてくれます。例えば、日本語とスペイン語の母音は aeiou の5つで、すべて口の筋肉をフルに使って発音するクリアで extreme, tight な母音です。それに対して英語は12個も母音があり、その内の5個 (ʌɪʊəɜː) は口の筋肉をあまり使わず (loose)、リラックスした状態で発音する曖昧なものです。そしてまさにその5つが特に日本・スペイン人が苦手とする母音…といった風に。ただ発音の特訓をするだけでなく、この先生のように母語との違いや発声器官の動かし方の観点から中学校でも授業ができれば、より効果的で面白く教えられるのではないかなと考えています。

・Oral Skills

その名の通り、ALL ENGLISH の教育実習に備えてとにかく喋りまくる授業です。自己紹介から始まり、各国の教育事情、緊張を止める方法、障害物走の指示（笑）、job interview、10分間先生なりきりレクチャー、などなど毎回様々なテーマを元に話します。この間は特に面白くて、baby と称した卵用の家を作り、2階からそれを落とし、誰の baby が生き残るかと言うゲームをしました↓（笑）



色々な方面の単語力が伸び、たくさん話すので自信が少しずつつきます。先生はオーストラリア人の若い美人な女の先生で、生徒への思いやりとやる気に溢れ私はとても好きです。つくづく先生にも恵まれているなあと感じます…

・ Observation Period Leading to Teaching Practice

20 個の授業を観察し終わりました。今回は少し授業内容について書こうと思います（教室環境については前回の報告書をご覧ください）。現時点では 3 年生では冠詞・単数形・複数形、4 年生では数・There is/are、5 年生では現在進行形、6 年生では I' ve got, 3rd person・singular・present tense(s, es)、7 年生では発音 (p-b, tʃ-dʒ の違い) を学んでいました。3 年生で冠詞などの概念を学んでいるのには驚きましたが、フィンランド語は日本語と同じく冠詞(a, an, the)がないので、早くから聞き・話す練習をせず慣れさせる狙いがあるのだろうと思います。また、私は I' ve got といった口語表現を日本の学校で習った覚えがないのですが、フィンランドはより実践的・口語的な表現も教科書に取り入れていることが分かりました。教科書に関して述べると、教科書・アクティビティブックともに分厚い＝内容が濃く、カラフルで絵が多いので視覚化しやすく、↑のどちらの本もデジタル化されているので電子黒板が使える＝音声をフル活用した授業ができます。2nd semester からはこれらを文化的側面から分析する卒業論文の執筆にとりかかります！

子どもの様子については、特に多くの 5・6 年生は授業中にあまり発言せず、日本の子どもと同じくらいシャイのように見えました。ですが、中には“Chaos”という形容詞がふさわしいくらいうるさく、先生が苦心しているクラス（5 年生）もあり、教育大国フィンランドでもこのようなクラスが存在するんだなと少し安心？しました。英語能力面では、多くの子が英語を綺麗な発音で話します。そして、文法もしっかり理解できて楽しんで学んでいるようでした。正直文法を小学生から始めるのは早いのではないかと（難しくても英語が嫌いになったり、母語に影響する）

と文部科学省と同じ考え方を最初は持っていましたが、フィンランドの子どもにできて日本の子どもにできないはずがないので（文字形態、発音面で多少のハンデはあれども）、英語を話せる子どもを育てたいなら小学校から文法を教えるという側に私はつきたいと考えました。

11月から8つの英語の授業を教える教育実習が始まります…！私は5年C組、少しシャイな子が集まるクラスを教えることになりました。実習先はラップランド大学附属「小学校」ですが、こちらの小学5年生は上記のように少し発展した文法と長文のテキストを学んでいるので、レベルは日本の中学2.3年生と同程度かそれ以上です。なので、この経験は帰国後私が実際に先生になった際にも役に立つと思います…複雑な心境（涙）

・Teach and Learn (German-Japanese)

私はドイツ語の挨拶、自己紹介、形容詞、数の数え方、便利な言葉…スラング？（geil=やばい、すごい）を学び、私はペアの子にひらがな、挨拶、形容詞を教え、更に日本語の授業の宿題の手伝いをしています。しかし、互いの国のご飯を食べ、映画を観るという文化交換がメインです◎日本の映画は君の名は。、るろうに剣心、思い出のマーニー、おおかみこどもの雨と雪、紅の豚を、ドイツの映画はFack ju Göhste、Head Full of Honey、Amelie（フランス映画のドイツ語吹き替え版）を観ました。感想としては、ドイツの映画は登場人物がかなり喋り、巻き起こるそれぞれの事象において説明がされるイメージですが、対する日本の映画は「空気を読む文化」が反映され、俳優たちの口数は少なく視聴者の受け取り方に任せている気がします。料理に関しては、私は肉じゃが・焼きそば・チャーハン・親子丼などを作りましたが、調味料・材料の関係でこちらで本格的な日本料理を作るのは大変です…！特にタイ米が固くて紙を食べているような変な味。。

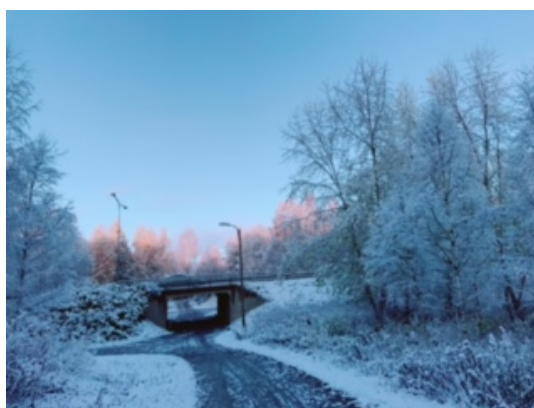


German brunch♡

2. 生活の状況



10月15日の様子



10月20日の様子

現在の気温は -17°C ～ 1°C あたりを行き来しています。↑を見て分かる通り、20日に初雪が降ってから景色と季節がガラリと変わりました。美しいです(^^)



↑左半分が凍った川

自転車でブレーキを掛けながらカーブしたらみごとに滑り、自転車から転がり落ちました…。
 -17°C より下がると、息をしたら鼻の中が凍ります。まつ毛や髪の毛、ズボンも徐々に凍ってきます…



↑自分を戒め、励ますために、1日1枚自分が経験したことをもとに格言を書いて壁に貼っています。そして大抵ルームメイトが意味を聞いてくるので、毎夜説明をしてフィードバックを貰い、哲学的な話になる座談会をしています。笑 そして最後に…ルームメイトの子(フランス人)がある時いきなり日本語を勉強し始め、私の格言を読みだしたのでとても嬉しいです！！

それではまた。次回は何°Cになっているのでしょうか…Ciao ciao 😊 (Bye bye in Italian)

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/06～2017/12/1)

Salut! Quoi de neuf?:) (“Hi! What’s up?” in French)

早いもので、留学生生活を開始してから3ヶ月が経ちます。日照時間は9:30～14:30ほどで、「もう夜か～」と思って時計を見ると「まだ15時!？」と驚く日々です。現在の気温は、最高1℃・最低-23℃くらいで、この間ベイマックスの細身版のような恰好をして家に帰ると、鏡には白髪のおばあちゃんが映っていました(髪の毛、眉毛、まつ毛、鼻毛、全て凍りました)。笑

1. 勉学の状況

・ Children’s Literature

以前にも述べた通り、子ども向け英文学の分析の仕方を色々な教授方法とともに学べた授業でした。文学の中に現れるジェンダーの観点(なぜ強いキャラはいつも男なのか、買い物に行き料理を作るのは女なのかなど)、言語のレベルの観点、倫理・道徳・教訓の観点などなど、この授業で得た様々な分析の観点を、将来子どもたちの指導に用いる文学の分析や子どもたち自身に分析させるための指針を示すためにしっかり復習して自分のものになりたいと思います。HOW TOだけでなく、日本にはあまり知ることのないヨーロッパ・アメリカ・イギリスなどの色々な英文学に触れられて知識の幅が広がったのも大きかったです。

最後に、この授業では自分で文学を2つ選んで分析しそれぞれについてエッセイを書く課題が出されたのですが、先生がとにかく熱心・献身的で、私は各エッセイを示された大量の改善点をもとに5回書きなおしました。英語のレベル・物の考え方・エッセイの書き方ともかなり上がったと思います。私の経験上、日本の大学でエッセイを書いてもコメントをされずただ数字の評価がつくのみなので、自分のエッセイのどこが良いのか・悪いのかが分からずただ「書く経験を積む」ことのみを重視しているように思えます。私は、どんなに自分が忙しくてもしっかり生徒の課題は丁寧に添削して、生徒の「書く」だけでなく「考え、改善する」力も伸ばせる先生になりたいと思います。

・ Phonetics and Pronunciation

母音・子音の発音の仕方・理論編と実践編で締めくくられましたが、日本人の苦手な発音をたくさん発見し、その改善法も学べて非常に実りのある授業でした。ここではその内の1つとして、外国人に勘違いされやすい「r」と「l」の区別の方法を紹介しようと思います。まずrは、発音する際の舌の位置は上の前歯の裏側の上の歯茎の「後ろ」辺りにありますが、「舌は口内のどこにも触りません」。つまり、舌の上から息が通り抜けるということで

す。逆に l は、舌が上の前歯の裏側の上の歯茎を「触ったまま」発音します。よって、息は舌の上からではなく横から通り抜けるので、舌の両サイドが冷たく感じます。舌が同じ場所で発音する子音は、n・t・d です。まとめると、一番大きな違いは l は舌が歯茎を触る・r は舌がどこにも触れないという点です…といったように、各言語に特化した指導法も学べるので、本当にこの授業をとって良かったと思います！最終テストも、留学生・現地学生の母語に合わせた異なる内容のテストがそれぞれに出されるというから、もうフィンランドの日本とは異なる「平等」の精神には頭が下がります…（フィンランドでの「平等」の精神を示す教育は、**子どもの足に靴を合わせる教育**と言われていて、それなら日本は**靴に子供の足を合わせる教育**だなと思いました。）。そして、引き続き来期はこの応用編（弱形・ストレス・イントネーションなど）の授業を取ります。

・ Oral Skills 一回 4 時間 5 ECTS

「10 分間なりきり教師」「Cambridge speaking test」「8 intelligences」「reproduce pictures only by oral introduction」などなど、様々なアクティビティを通して最後まで話しまくる授業でした！特に最初に挙げた 2 つのアクティビティは本当に為になりました。10 分間なりきり教師は、いわゆる自分で考えたスピーキングアクティビティの模擬授業で、私は "WHO AM I?" ゲームを導入しましたが、ゲームの質から指導の仕方、私の良い発音と悪い発音まで事細かにフィードバックを先生・学生両方全員からもらえ、普段はなかなか気づけない自分の指導上の長所・短所が分かりました。2 つ目の Cambridge テストも同様に、実際のテストをグループで行って録音した音声をもらえ、更に先生からの録音されたフィードバックをもらえます。自分の英語を最初に聞いたときに声・発音・文法・語彙ともひどすぎて「うわあああ」となり 1 日聞くのをやめました。改めてちゃんと聞いて分析してみると、私は Consonant cluster（カタカナで言うなら、例えば different ならディ"ファ"レントウと発音してしまう。正しくはディ"ツ"フレ"ントウ=fr の間に a を入れない）が苦手なことなどなどたくさんの苦手が見つかりました。先生からも、「子音の発音は完璧だから母音を頑張れば OK！」と言われたので、今後は発音アプリを使って自分で矯正します…。将来の「英語の先生」として、すんなりと伝わる英語の発音=Upper class British English（または現在の日本の場合 American English）に近づき、生徒が悩むであろう Japanese Accent を矯正していくことが必要だと考えています。あまりにも Japanese Accent だと伝わらないことが多々あることが分かったので…

・ English Grammar and Usage (CEFR C1) 1 回 2 時間 30 分

冠詞、前置詞、主語と動詞の一致、If 節、句動詞、直説法と間接法、心情を表す助動詞など留学生が間違いやすい文法を中心にエクササイズ・なぜそうなるのかの討論・先生の解説で授業が進みます。私はこの授業は Oral Skills とだだかぶりしていたので 3 回しか出られず（フィンランドの授業は曜日固定ではないので毎週授業の時間が変わり、色々な

授業が Overlap します)、同じ授業を取っているルームメイトに先生との懸け橋になってもらい(ルームメイトに先生からのハンドアウトをもらい、終わったら代わりに先生に提出してもら)、まるで通信指導のようになっていました(笑)先生は単位を申請せずいわゆる聴講扱いの私の課題も本当に熱心に添削してくれます。「なぜこの文法はこうなるのか」「教科書文法と日常的例外」という深い部分まで突っ込んで書いてきてくれるので、ロジカルシンキングが好きな私にとっては最高の文法の授業です。

p. s. 教育実習を今月行う予定でしたが、監督教師が他のフィンランド人学生の指導とフィンランド独立 100 周年(12月6日)記念日の準備で忙しいため、1月に行うことになりました。原級(as~as...)、比較級(-er)、最上級(-est)を、日本文化と共に教えます。それについては、また次回の報告書でお話しします!

2. 生活の状況

私は、最初は千葉大の「短期留学プログラム・ロンドン1ヶ月」すら、英語が話せないのに1ヶ月も行くのが怖いと思っていました。でも、何が起こったのか気づいたら1年間のフィンランド留学に来ていて、既に3ヶ月が経っていました。1年前、ラップランド大学に申請するときに英語のHPを読まなければならず「うわ…もう読むのやめよう…」とすぐにPCをシャットダウンしていた私が、今では全く抵抗がなくなり、それどころか周りにはフィンランド語だらけのため英語を見たり聞いたりすると安心するようになりました。この間観に行ったゴッホについての映画『Loving Vincent』も、フィンランド語字幕で英語音声でしたが、理解できたので確実に英語力は伸びていると実感しました。「勇気」「慣れ」って、不思議で素晴らしいものですね。スピーキングも、まだ間違いや良い淀みなどはありませんが、文法などを深く考えることなく話せるようになりました。

また、はっきり言って他の国からの留学生の英語も完璧とは言えません。文法間違い・発音間違いを結構します。例えば、スペイン語で「だよな?」は”No?”なので、”isn't it?”の代わりにいつも混同して使っていて面白いし、フランス語はhの発音がないため、”I hate him”が”I ate him”に、”your black hair”が”your black air”になり大爆笑。フィンランド語はb, d, gの発音がメジャーではないため、例えばprobably→propaplyになりやすい。Zooをゾ〜と発音している人もいるし、一番多いなと思った文法ミスは”Do you know where can I get it?”(正しくは”Do you know where “I can” get it”)です。何も日本人だけ英語ができないわけではない、むしろボキャブラリーや文法面では日本人の方が上なのではないか?なぜpとbを混同するの?!hが発音できないの?!などと感じる時がしばしばあります(もちろん母国語の影響なので自然なものなのですが)。

しかし、やはり他国の留学生の方が流暢だと感じるのは、間違いを恐れずに、また深く考え込まずにさらっと自分の意見を話せるからだだと思います。「自信・自尊心」の問題ですね。日本人独特の「恥」という感情が手伝って、「日本語なまりの英語が恥ずかしい」「間

違っていたら、聞き返されたら、伝わらなかったらどうしよう」という恐れを抱き、話すのをためらう経験をした日本人はきっと大勢いるでしょう。そういう人こそ、留学して世界の英語を聞き、自分の英語を試してみるべきだと思います。主に発音・語彙・文法に苦しむ日本人だけでなく、第2言語として英語を学ぶ国の人には皆各母語に応じた問題に苦しんでいますが、それでも言い換え・ジェスチャー・例・翻訳などを通してなんとかコミュニケーションがとれたときの喜びは大きいです。外国語を駆使して、世界に飛び立ち、知らなかった世界を知り、自国に戻って今後の日本を変えていける人を育てられる英語教師になるという夢…ではなく、**野望**を実現するため、今後も頑張ります！

気づいたらただの言語に対する主観の話になってしまいました…。言語や文化の話をしたら止まらないです。笑 最後に、素晴らしい友人や先生・教育の質と忙しさ（とビタミンDのサプリメント？）のおかげで恐れていた鬱には全くなさそうです！良かった。

また次回、お会いしましょう。Au revoir! (“Goodbye!” in French)

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/1～2018/1/9)

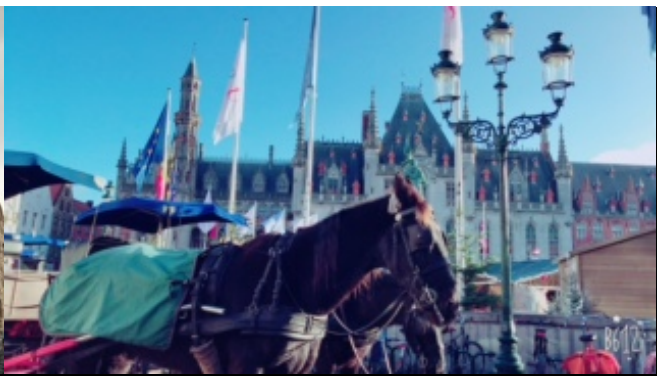
今回は、12月のメインであったヨーロッパ・中東諸国一周旅行についてもものすごく簡単にまとめようと思います！もっと長く語りたいのですが、現在教育実習を行っており時間がありません…詳しい話を聞きたい方は直接声をかけて頂けると幸いです。

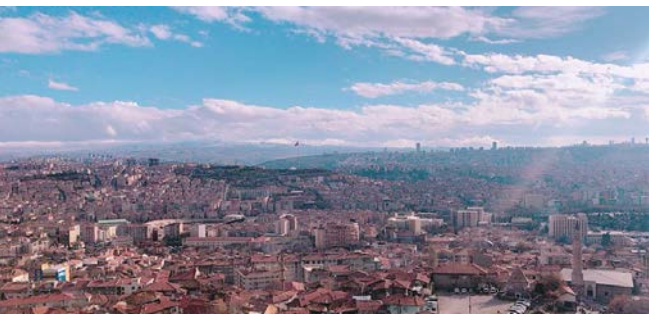
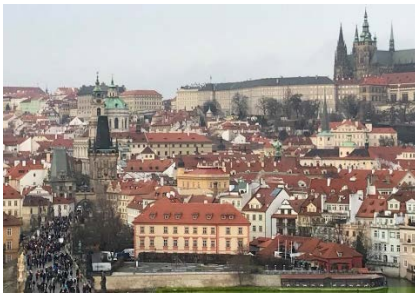
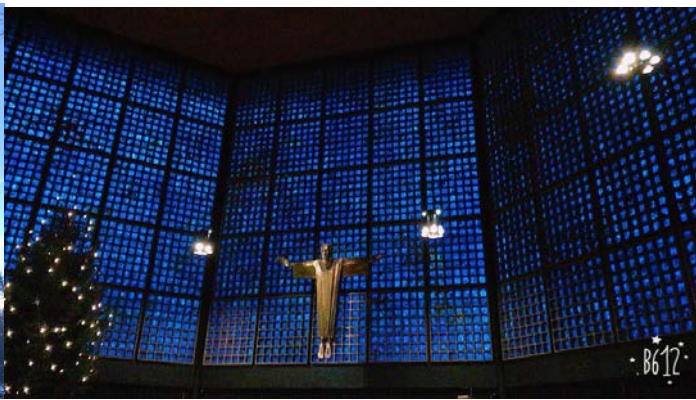
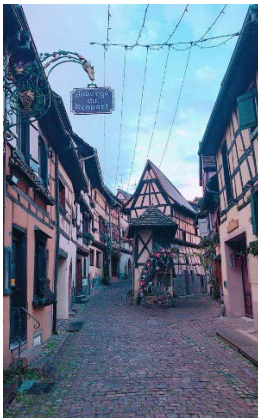
昔からヨーロッパの美しい街並みに憧れていたのですが、日本からヨーロッパに行くのは航空費がかかるので、こっちにいる間に一周しておこう！と決意し冬休みを使って旅行をしました。イタリアの人々のオープンさやベルギーのお菓子の美味しさ、意外と汚臭や不潔度がすごいパリ、スイスの物価の高さ、雪景色の壮大なアルプス山脈を持つオーストリア、ユダヤ人虐殺や冷戦による壁、チェックポイントなど歴史が色濃く残るベルリン、まるでおとぎ話のような赤い屋根の建物が特徴のプラハ、夜景の美しさ NO.1 ブダペスト、サントリーニの海の青と建物の白のコントラストの美しさ、トルコ人の日本人大好き具合など、現地に行かなければ実感できない各国の特徴がひしひしと感じられました！

ヴェネツィアにいる間に右目が見えなくなり病院に駆け込んだり、半分ほど一緒に旅行する予定だった友人のパスポートが盗まれ結局全て一人旅になったりとアクシデントも続出しましたが、ラップランド大学で出会った各国の友人たちの実家に泊めさせてもらい、故郷を案内してもらおうという貴重な経験ができたこの旅行は私の人生で一番の思い出です。女性バックパッカー一人旅の極意が知りたい方は、私まで！笑

以下は参考写真です。









海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/1/10～2018/2/1)

Yassou! (Hi! in Greek. なぜか今学期ギリシャ人の留学生が多いので。)

1. 勉強の様子

旅行から帰国した翌日から、中心街にある小学校での教育実習が始まり、数日前にすべての授業を終えました！私は小学 5 年生の担当で、日本文化を交えながら比較級・最上級を教えました (全 8 授業)。まず小学 5 年生で私の話す英語が理解でき、本格的な文法を学べるという事実が驚き…。フィンランドでは小学 3 年生から英語の授業が始まり、英語で文法の授業を行います (3 年生のある学級は **How many~?**を学んでいました)。私は最初に子供の名前を漢字に変換して意味を教える授業をし、すべての子どもの名前を初回で覚えてみんなと親しくなり、その後の授業ではポケモンバトル (ポケモンは 2 段階進化をするので、原級・比較級・最上級が視覚的にわかりやすく、また子どもたちもポケモンが **extremely** に大好きなので大成功でした！)、他のアニメのシーンをういオリジナルストーリー作成、日本の最上級のもの (スカイツリーなど) 紹介、折り紙でピカチュウ作成、世界の人と友達になろう！ゲームなど子供たちが楽しみながら学べる授業を考えるのに没頭した (それしか考えていなかった) 1 ヶ月でした。

この実習のモットーは「日本の教師中心型授業から脱し、フィンランドの子ども中心型授業に挑戦すること」と最初に決めていて、それをベースに毎回授業の後に指導教官からアドバイスを頂くのですが、初めの方はやはり自文化が影響してどうしても教師が教え込み、子どもはただ聞くだけの受身という体制になっていると言われてしまい、かなり悩みました。しかし、何度かものがくうちにコツを掴み始め、最後の授業が終わった際には「習得したね！」と教官が言って下さって、シャイだった子ども達は”**You’re a good teacher.**”と言って泣きながらハグをしてくれました。後日学校を訪れた際も、私が用いた子どもたちの名前カードやポケモンカードを机の上に残してくれていて (写真参照)、大泣きしました。たった 8 回しか授業を教えていないし、言葉も通じない異文化から来た宇宙人みたいな私だけれど、私の心にはもちろん、子どもたちの心に残るような 1 ヶ月を一緒に作れたのではないかなと思います。フィンランドの日本とは違う「平等」の概念、「徹底的に」子ども中心！の概念や教授のテクニックなど、ここには書ききれないくらい多くのことを学んだ、観察実習も含め 2 ヶ月間の教育実習でした。

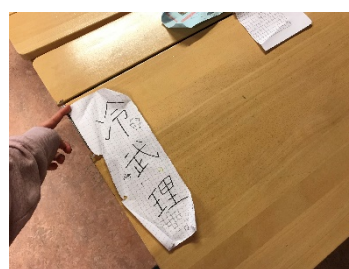
2/4~9はOuluというRovaniemiから少し下の地域の小中学校に、”Erasmus in school”というプログラムを利用して日本文化を教えに行きます！小学1年生～中学3年生まで全学年を担当するので、内容の差別化が大変です…そして2/28~3/8には、オーストリアのウィーンに千葉大学の私の研究室の教授と仲間とでまたまた教育実習をしに行きます。秋学期は理論中心の勉強だったのですが、春学期は実践中心の勉強になりそうです。気合を入れて、貴重な一日一日を大切に過ごしていきます！！



ポケモンバトル用カード



子供が机の上に残してくれた私の残骸たち



2. 生活の様子

数日前に-26℃（体感温度-32℃）を体験し、炎をまとった氷の槍が顔面に突撃してくるようなイメージで、ものすごく寒かったです（笑）髪の毛・まつ毛・眉毛・鼻毛、すべての毛が凍り、ベイマックス型おばあちゃん再来でのこのこ歩いて帰宅しました。ドアの取っ手の金属を触ったとき、低温火傷しました（涙）友達は濡らしたタオルを振り回して刀のように鋭く凍らせていました。ここ最近0℃～-26℃を行き来しており、日の出は10時で日没は15時くらいです。能天気な性格が幸いして鬱になる兆候は全くなく、むしろ今しか味わえない寒さと暗さを楽しんでいます！サウナの後に湖に飛び込むアイススイミングにも挑戦しました！結果は…ご想像の通りです、**Crazy** すぎました（涙）（笑）



ロヴァニエミ協会と夕日



元は湖だった場所

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/2/2～2018/2/26)

Moi!:)

1. 勉強の様子

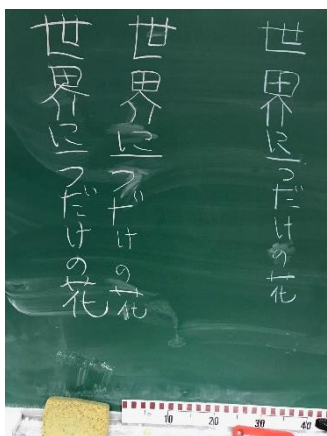
2月4日～9日まで、Oulu という Rovaniemi の南西にある港町に行き、フィンランドで3本の指に入る規模の小中学校で日本文化を教えてきました！利用したのは、”Erasmus in Schools” というプログラムで、自国の文化を広めたい留学生とそんな学生を受け入れたい小中高校をマッチングし、終了後は学生に映画のチケット2枚と交通費の支給がされるというものです。特別支援学級も含め、小学1年生～中学3年生まで総勢約700名、28クラスを教えました。行ったのは、子どもの名前を漢字に変換してその意味を伝え、その漢字を習字で書いてもらうアクティビティや、折り紙（鶴、ピカチュウ、手裏剣、風船）、有名な観光地・文化はどの地域にあるでしょうクイズ、日本語の挨拶、宗教（日本における神道、仏教、キリスト教の混在）、忍者・侍・芸者と着物（フィンランドには”Geisha” という人気のチョコがあるので配りました）、食文化紹介と寿司づくり、有名な音楽（世界に一つだけの花、千本桜、花は咲く、瞳を閉じて）、有名な映画（君の名は。）などです。ただの自分が話して終わる文化紹介ではなく、教師としての授業づくりの観点を持ち続け、できるだけ子供が活発に活動に取り組む中で日本について学べるように、子どもたちの反応からの反省を取り入れつつ日々内容を改善していました。フィンランドの子どもたちは日本にとっても興味があるようで、すべての内容に目を輝かせながら取り組んでくれました。キラキラしたあの青い瞳の美しさといったら…（涙）また、様々な子どもが覚えた日本語を用いて「こんにちは！」「ありがとう！」と廊下で話しかけてくれたり、小学1年生の子でも”Japanilainen! (ヤパニライネン、フィンランド語で日本人)” と寄ってきては、英語でコミュニケーションを取ろうとしてくれて感動しました。書きたいことがありすぎてまたまた載せきれないですが、とりあえず絶対教師になると覚悟と熱意を改めて固めることができた貴重な経験でした！このプログラム、オススメします！！



職員室（…ホテルのロビーか？

中2生作、寿司

小5作、my name



知らぬ間に真似してくれていた…上手！ちょっと惜しい！

以下は春学期から始まった授業の詳細です。

・ Civic Education, Good Governance and Active Citizenship 7ECTS

Global Education という、ラップランド大学の1つの得意分野から1科目受講してみました…が、ECTS の数が表す通り、とてもタフでした…Oh My God という感じです（笑泣）4時間、真のグローバル社会の実現に向けた抽象的な概念についてディスカッションをします。例えば、” How are a sense of global responsibility and a culture of service related to the requirements of world citizenship?”、最初は(°д°)このような感じで、自分が情けなく泣いた日もありましたが、世界的市民教育という内容自体は今後必要だと思うし、面白いのでなんとか食らいついていきます。これまたイラン人の先生が一人一人を常に気にかけてくれ、神のように優しく、教養のある素晴らしい人です…！

・ Grammar and Writing 3ECTS

難しめの文法チェック（Wish の使い方、could と might の可能性の高さの違いなど）と Writing スキル向上はもちろんのこと、それらをどう子どもに教えるかのトレンドなどを学びます。いったん語学系に見える名前の授業を受講しても、教育学部が開講している授業がほとんどなので、結局ほぼ子どもへの教え方を学びます。しかしこの授業、Oulu への出張や他の授業と被りまくっていたため 50%しか出られず、先生から「あと1回授業に来なかったら有無を言わず落とすよ」と言われ、怯えています…寝坊したら即不可（涙）フィンランド人の先生は寛容ですが、イギリス人の先生は厳しいです。

・ Communicative Materials 2ECTS

毎授業、コミュニケーションを促進するための莫大な量のアクティビティに触れられ、将来の英語の授業で使える活動のレパートリーが大量に増えます。先生から与えられる

アクティビティを実践・分析したり、自分たちでアクティビティを作り出したりします。

・ From English to World Englishes 2ECTS

英語が英語圏だけでなく様々な国で使われている現在のグローバル化の状況を踏まえ、「英語から世界的英語『達』」という表記に惹かれ、受講しました。その表記の中には、英語圏の英語だけが認められるのではなく、異なる文化の人々が話すアクセントが多様な英語も「種類」として認められる時代なのだという根底の概念があるのだと思います。内容は、英語の授業内での文化の教え方やイギリスの地理・言語・教育、についてでした。また、英語教師としてどの国の文化も触れるべきですが、最低限知っておくべき英語圏の文化を教師が紹介・生徒がプレゼンテーションします。

・ English Didactics Seminar 4ECTS

毎回1人の学生が教師となって英語教育における各テーマを教え、ディスカッションをします。90分間を自分1人でマネジメントするなんて、責任重大…。また、自分が決めたテーマに沿って研究論文を書きます。英語教育の授業はほぼ一人のイギリス人の女の先生が教えていますが、この先生の授業は大量のプレゼンにエッセイに模擬授業にと課題が多すぎて死にそうです、、、ぐえ

2. 生活の様子



100 years old Finland



beautiful Lapland





氷でできたテーブル・イス、横にはスケートリンク

最近の気温は -30°C などになることもなく、低くても -20°C に落ち着いています。日照時間も4時間ほどだったのが、倍になりました！若干ですが春の訪れを感じます（早い。笑）。暗く寒い長い冬を越え、白い雪に太陽光が反射し、キラキラ輝く美しい自然の景色を見たときの、「生きていてよかった…！」と感じられる幸せは、北国だからこそ感じられる特権ですね。

日本から何人かの友達がはるばる訪ねてきてくれたり、中国の旧正月を祝うパーティーに参加したり、他の留学生の家族との夕食にお邪魔させてもらったり…生活面も充実しています！そして、今までは実習や文化紹介、授業で忙しくて考える暇もなかったのですが、ようやく少しは**自分の時間が持てるようになってきました**。自分の好きなことは何なのか、やりたいこと（人生の目的）は何なのか、人生をどう生きるべきなのかなどを考えるのにハマっています。そのようなことを考える「クロスローズ」というプログラムの伝道者の方が週に2回ほどセミナーを開いて下さるので、毎回参加しています。教科書が200ページもあるのにまだ40ページくらいしか終わっていません…4月末に終わる頃に自分の考え方がどう変わっているか、とても楽しみです！日本にいと更に忙しすぎて（特に帰国後は恐ろしいです…事後報告、授業、アルバイトはもちろん、教員採用試験、教育実習に卒業論文…試練の1年）、まさに「心を亡くす」…そういうことを考える時間がありません。色んな人と対話をし、ゆっくり考える時間が持てるのは今の内だということを肝に銘じ、留学中に思考を深めたいと思います。

さて、来月の上旬はスキーホリデーということで、オーストリア・ポーランド・オランダ・デンマークに行ってきます！それでは、Moi moi!

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/2/27～2018/4/4)

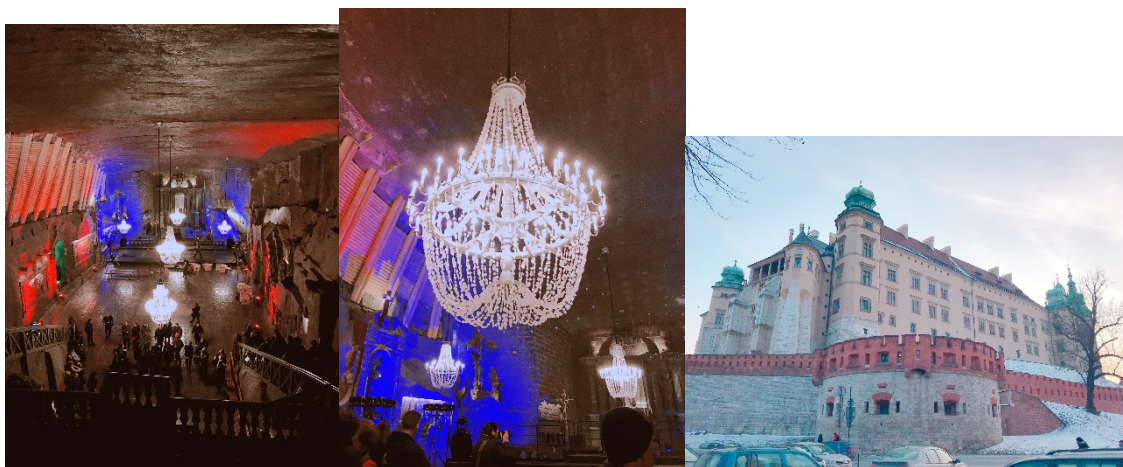
Hei!=Hello! (Moi!=Hi!で、Heiの方がフォーマルだと知ったときの衝撃は忘れません。なので、この間校長先生に Hei hei!=Goodbye と言いました。へいへい、日本でも使いそうで怖いです…笑)

2/28～3/7 ヨーロッパ旅行② ～クラクフ・アムステルダム・コペンハーゲン～

フィンランドではスキー休暇といって、2月末から3月初めにかけてほしい2週間くらいの休みがあります。この期間を利用して、第2弾ヨーロッパ旅行に行ってきました！もともと、ウィーン（オーストリア）→クラクフ（ポーランド）→アムステルダム（オランダ）→コペンハーゲン（デンマーク）のつもりでしたが、初日にロヴァニエミから列車で12時間かけ首都ヘルシンキに着いた後に、なんとパスポートを家に忘れたことに気づきました（笑）結局、Facebookの留学生のグループでヘルプを頼み、ある子が翌日ヘルシンキについて持ってきてくれたので、クラクフからリスタートできました。他人のトラブルの解決にとっても協力的なラップランド大学の留学生、大好き(; ∇ ;)

またまた色々なトラブルがあり、クラクフでは元々の目的のアウシュビッツ強制収容所にはいけなくなってしまったのですが、代わりにヴィエリチカ岩塩抗に行ってきました。すべて塩でできた世界は感動的であるとともに、このような暗い地下世界で働いていた人々の苦労を偲びました。ヨーロッパ一周をしてきて、フィンランドの次に住みたいと思ったのは、次の目的地アムステルダムです。とにかく人・建物・運河・花・空・空気…すべてが美しい。感動しながら向かった最終目的地にて、一番のピンチ（という名の成長の機会）が訪れました。コペンハーゲンにて、パスポート・フィンランドの在留許可証・デビットカード・財布・家の鍵・バスの定期券…すべて盗られました。特にパスポートは、色々な国を旅してきた証が詰まっていたので、最初はとてもショックでした。しかし、以前と一緒に旅をしていた私にとっての「仙人」の友人がパスポートを盗まれた際、「神は乗り越えられない困難は与えないから、大きな困難が来るほど自分はそれだけの逸材だと感謝する」「人生に起きたすべてのことに意味があり、人生に貢献する。無駄なことは一つもない」などの数々の格言を残しつつ、とてつもなくポジティブだったので、彼を見習ってポジティブ思考で問題を即解決することができました。また、無一文で浮浪者となった私に、お金を出してくれたり泊めてくれたりと無償の愛を提供してくれた人々へ、世界の人々に無償の愛を返すことで恩返しをしようと誓うことができた素晴らし

い旅行でした。(この後、再発行したパスポートを郵送してまた行方不明になったので、とことんパスポートには縁がありません(涙))



ヴィエリチカ岩塩坑

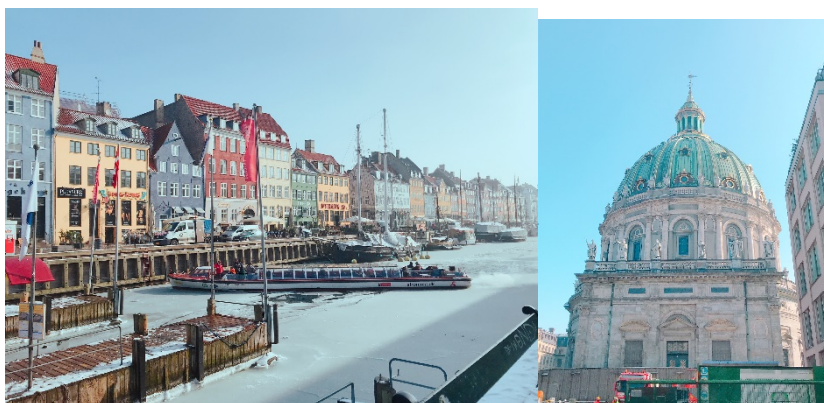
塩製シャンデリア

クラクフ



アムステルダム

東京駅のモデル



コペンハーゲン

盗難現場の教会

勉強⇄

・ Civic Education, Good Governance and Active Citizenships

授業の最後 3 コマは、ドイツの村にシリアからの移民を受け入れる際のシミュレーションを行いました。真のグローバル社会を作るための模擬選挙と会議を実践するためです。まずは村民代表の評議会を選び、その後村人役と評議会役で分かれて何が問題になるかディスカッションをし、最後に村会議で話し合い、また二手に分かれて話し合うというセットを繰り返します。最初の選挙のところでは、プロパガンダがない状況のため決め手が難しく、また会議でも自分たちの意見を本当に自由に話していいので、逆に戸惑いました。日本人の「答えのない問い」に対する弱さは異常だと思います。この授業を通して、私は自分の存在と考えに自信を持って、世界的視野で行動できる子を育てたいという思いを改めることができました。また、心からこのような先生になりたいと思えるような、自己肯定感を高めてくれる先生に初めて出会えました。ラップランド大学に来た際はぜひ会ってみてください。ロヴァニエミ在住イラン人の、Partow Izadi 先生です。人生が変わります。

・ English Didactic Seminar

ICT と authentic 教材に関する模擬授業と英語教育の様々なトピックに関するプレゼンテーション・エッセイで成り立っていました。私のプレゼンテーションのトピック（90分話し、ディスカッションを誘導する）は、「英語学習者のモチベーションをどう上げるか」で、1か月前から準備をし、用意したスライドの数は70枚。かなり気合を入れて挑んだところ、初めて **Amazing!!** と **There's nothing bad!** と褒めてもらえ、とても嬉しかったです！長時間のスピーキングに恐怖を抱いていましたが、やれば、できる。

・ Grammar and Writing

前回の報告書でお話しした通り、私はこの授業は落第寸前でしたが、最終文法テストでなんとクラス1位でした。スピーキングが一番できない自信が未だにありますが、もっと自信を持って話して慣れていけばしっかりとした文法で話せるということだ（日本人共通）と信じ、残りの2ヶ月を生きます！

・ Varieties of English

新コース。イギリス女王の英語、ロンドンの労働者階級の英語、スコットランド人の英語などなど、様々な世界の英語の歴史や特徴について学びます。例えば、**I says** は間違いとされていますが、ロンドンの労働者階級ではそれが正しいとして話されているので、文法は一概に「正しい」「間違い」で終わらせて

はいけないもので、世界の各英語を分析的に伝えることもできるのだと学びました。生徒には、これが「正しい」から「黙って覚えよ」という教え方はしないように心がけます。

・ Gender in Society and Culture

新コース。まだ始まって間もないので詳しくは分かりませんが、タイトル通りのことを講義・ディスカッション・ワークショップで学ぶようです。自国のジェンダーについても最終回で深く考えます。

その他✽



トナカイそり



フィンランド名物マッカラ



ハスキーそり

今月は自然を満喫した月でした！山の中のコテージにキャンプに行って色々な人の話を聞いたり、上記に加えてアイスフィッシング・サウナをしたりなどなど、フィンの子になりました(^^) 湖の上を歩けるのも今月で最後かなあ…

来月は、バングラデシュに行ってきます。

こちらで出会った方とのグループで、衛生・栄養・早期結婚・女性差別・愛と教育というテーマで2週間、教会学校や貧しい村・家を訪ねて回ります。発展途上国には、インドネシアに行ったことはありますが首都ジャカルタだったので、本当の貧しさを知るのは今回が初めてとなります。幼い頃からテレビにアフリカの子どものCMが流れるたびに涙をこぼし、ご飯を食べるのをやめていた私が、ようやく貧困支援への一歩を踏み出す機会が与えられたことに感謝しています。

それではまた次回！ Hei hei!:)

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/4/5～2018/5/1)

Hi! 帰国まで後1ヶ月となってしまいました…早すぎた、この1年間 (涙)

1. 学業の様子

今月は授業が2つしかなく、余裕が出てきました！5月4日～19日にバングラデシュの首都ダッカから飛行機で1時間離れた貧しい小さな村を訪ね、小学6年生くらいの女の子たちに「衛生・栄養・早期結婚のリスク・女性の権利」というテーマでミニレクチャーをしたり、村の家族を訪ねて話を聞いて回ったりするので、その準備と以下の授業に取り組んでいます。バングラデシュのことは、また来月の報告書に書きたいと思います。

・ Gender in Culture and Society 5ECTS

この授業は、正直言って少しがっかりでした。笑 せっかく多くの国からの留学生が集まっていたので、毎回グループのメンバーを変えて各国のジェンダーについて話し合えばもっと世界の状況が分かって面白かったと思うのですが、この授業は最初の3回は先生がひたすらしゃべり、最後の1回でグループごとに各国のジェンダーの状況のプレゼンでした。最終回は各国のことがよくわかり楽しかったのですが、最初の3回はよくわからない定義や個々の事象、現状の端をかじるだけでたいして面白くなく、そして最終課題は授業で学んだことを書くという…何を学んだか分からず苦しむという経験はこちらに来てから初めてです (涙) この授業は、反面教師として自分の授業に活かしたいと思います。

面白かった最終回の授業は、中国・韓国・日本のアジアチームで、アジアのジェンダーを発表しました (各国のドラマの中で、ヒロインは「かなり抜けていて、かわいくて (ドラマの中ではかわいくないという設定)、バカで貧乏」なのに対し相手の男性は「賢く金持ちで、イケメンで完璧」というイメージが付きものということ、各国の女性差別の起源、最近の回復傾向について)。プレゼンの最後に、アプリで「理想の顔 (白肌、大きな目と涙袋、小さくて血色の良い唇、小顔、シュッとした顎)」に勝手に整形された自分たちの顔を見せたら、ヨーロッパの学生達は驚愕して爆笑していました (笑) ヨーロッパでは、むしろ日に焼けた肌が健康的で好かれるから、わざわざ日焼けサロンに行く人までいるという人も。面白いですね！

・ Varieties of English 3ECTS

世界に広がる英語の影響力とその種類について学びます。イギリス内と周辺国の地域・アメリカ内の地域・アフリカ・インド・カリブ海地域・オーストラリア・ニュージーランド・カナダ内の地域の英語の音声聞き、1つ1つの種類の語彙的・文法的・発音的特徴を

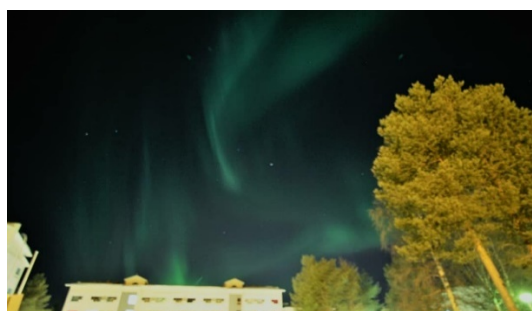
チェックします。それらは身分・地域ごとに異なり、「普通」の学校では「間違い」とされる英語（例えば、I says や themselves など）が正しいとされている地域もあり、一概に「これは間違っている」と教えてはいけないなと考えさせられました。日本人は日本語なまりの強い英語を話し、聞き取りづらいのでは…と落ち込んでいる日本人には、例えば Scots（スコットランドの英語）や African American English を聞かせてあげたいです…きっと、自分たちは標準英語に近い方だ、と元気になります（標準への近さを望むなら）。笑 どれが正しいとか間違っているとかいう基準はこの授業ではなく、「この種類の英語はこういう特徴がある」というような分析型の授業はとても興味深かったです。

2. 生活の様子

日本は桜が咲いて散ったみたいですが、現在のラップランドは以下の通り雪が降っては溶けを繰り返し、気温も 10℃～-7℃と不安定です。ですが、日照時間は日に日に長くなり、今は 4:30 に日が昇り 21:30 に日が沈みます。4月後半になってからようやく、春の兆しです…！



ラップランドの4月



まだ見えるオーロラ



トナカイそり



ハスキーそり



アイスフィッシング



マッカラ（フィンランドのソーセージ）

名物のサーモン

↑フィンランドの先住民サーミの人々の文化を体験するために行ったキャンプにて

今月は、上記の内容に加えて、私が授業中発言できず悔しい思いをして泣いていた「グローバル教育」という授業での事件後とても仲良くさせて頂いている、パルトー教授と1週間に2度4時間ずつほどディスカッションをしています。内容は、人間の本質・将来のビジョン・平和・ジェンダー・日本とフィンランドと西洋の精神文化・宗教・教育など…とても幅広い教養とそれぞれの分野に自分のしっかりした意見があり、かつ優しくいつでもすべてを受け入れるような方で、すごく刺激と励ましを頂いています。この教授に出会って、なりたい教師像も固まりました。素晴らしい出会いに感謝です！！

See you! 次回が最終号です。